



平成25年度

第1回みみらんどセミナー

きこえシリーズ①

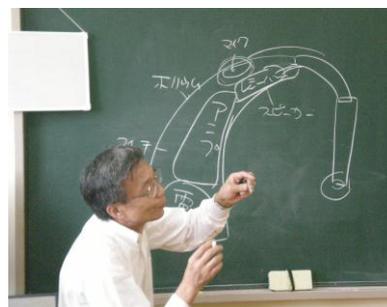
☆ 実施日時 ☆ 平成25年5月27日(木) 9:15~10:15

☆ テーマ ☆ 「補聴器の特性・管理」

☆ 講師 ☆ 福島ヒヤリングセンター すがの 菅野 純一 様

第1回みみらんどセミナーの概要をご報告します。

当日は、資源回収日で保護者の皆様が集まる日に設定したこともあり、7名の保護者の皆様にご参加いただきました。最初のテーマは「汗対策」です。10月までは汗による故障が多くなります。汗が入ると、音が弱くなったり補聴器を外した時に鳴る「ピー」という音が小さくなったりします。電池チェッカーで電池の有無を確認することと視聴チューブで聞いてみるのが大切です。補聴器を外した後は、乾燥剤を入れたケースに入れるか補聴器用ヒーター(乾燥器)で乾燥させてください。①乾燥剤②電池チェッカー③視聴チューブの3点セットは必需品です。また、汗カバーも有効です。最近は防滴機能付きの補聴器もありますが、多く汗をかくとやはり故障もあるのでカバーはつけた方が良いでしょう。北欧メーカーの補聴器は、気候が日本と違うので、あまり汗対策が進んでいないのではとも感じています。イヤモールドのケアについては、各社から専用のスプレーや洗浄剤も販売されていますが、濡らした脱脂綿等で拭く程度で十分です。なお冬場はエアパufferでチューブにたまった水を飛ばし、故障を防ぐことが必要です。次に「補聴器メーカー」についてです。シーメンス(ドイツ)、フォナック(スイス)、GNリサウンド(デンマーク)、オーティコン(デンマーク)、ワイデックス(デンマーク)、スターキー(アメリカ)が世界6大メーカーといわれています。しかし、各社特徴があるので、性能の良さだけでなく、その子にとって合うものを選ぶことが大切です。日本では、医療機関で選ばれているからか、フォナックとワイデックスが多くの割合を占めています。昔はリオンが多く利用されていましたが、アナログからデジタルへ変化する過程で、量産が難しいという理由からメーカーの統廃合といった再編があったようです。特にフォナック社はサウンドリカバリー(周波数圧縮)という機能の特許を持っています。特に増幅しにくい高音域を聴力が残っているところに圧縮して入れ、閾値を上げる商品です。この機能の効果は大きく、多く選ばれている理由なのだと思います。



最後に「補聴器特性」についてです。学校や家庭で、補聴器の特性を知り、利得が確保されているか、波形の違いはないかを確認する必要があります。波形が下がっている場合は故障している可能性を示唆している場合もあります。

お話の中で、保護者の方から出た汚れのケアや汗カバーについての質問にお答えいただきながら、研修を深めました。